

非正規社員の能力開発の現状と課題

人材育成部門 稲川 文夫

1. 労働市場における非正規社員の動向
雇用者に占める非正規社員の割合、非正規社員数の推移
(図表1)
2. 企業における非正規社員の能力開発(図表2)
非正規社員の能力開発を実施している企業の割合
計画的OJTとOFF-JT(正規社員との比較を含めて)
従業員教育を実施している企業の割合からみた教育訓練機会の格差
 - ・計画的OJT:2.7倍
 - ・OFF-JT:約3.5倍
3. 非正規社員の能力開発行動(図表3～図表7)
 - (1) 能力開発の実施状況
 - (2) 能力開発に投入できる資源(時間、お金)と投入状況(過去1年間における実施状況及び1年間に使った時間、お金)
 - (3) 能力開発に関する情報の入手方法
 - (4) 能力開発を進める上での課題
 - 自己啓発に関して不足している情報
 - 自己啓発にあたっての問題点
4. 非正規社員の能力開発に対する支援(上記(4)の、)に対する相談支援、訓練コースに関する情報提供、キャリア形成支援に関する情報提供)
 - ・ハローワーク
 - ・雇用・能力開発機構(ポリテクセンター、都道府県センター)との連携

(例1)「忙しくて自己啓発の余裕がない」に対しては、土日で受講できる訓練コース等の検索、通信教育で受講できるコースの検索。
余裕がなくても自己啓発で何がしたいかがわかれば方策はある(もし、余裕があればどんなことがしたいか質問する)。

(例2)「やるべきことが分からない」に対しては、自己分析:興味を持っている分野は何か、やってみたい仕事は何か、やりたい仕事を特定する、現在の自分の能力の棚卸をする、自分がやってみたい仕事に求められる要件(能力、資格が必要な場合もある)を整理する、現在の自分に足りない能力を補充する能力開発を提示する、適切な訓練コースの検索等、能力開発のやり方を提示する

非正社員の能力開発の現状と課題

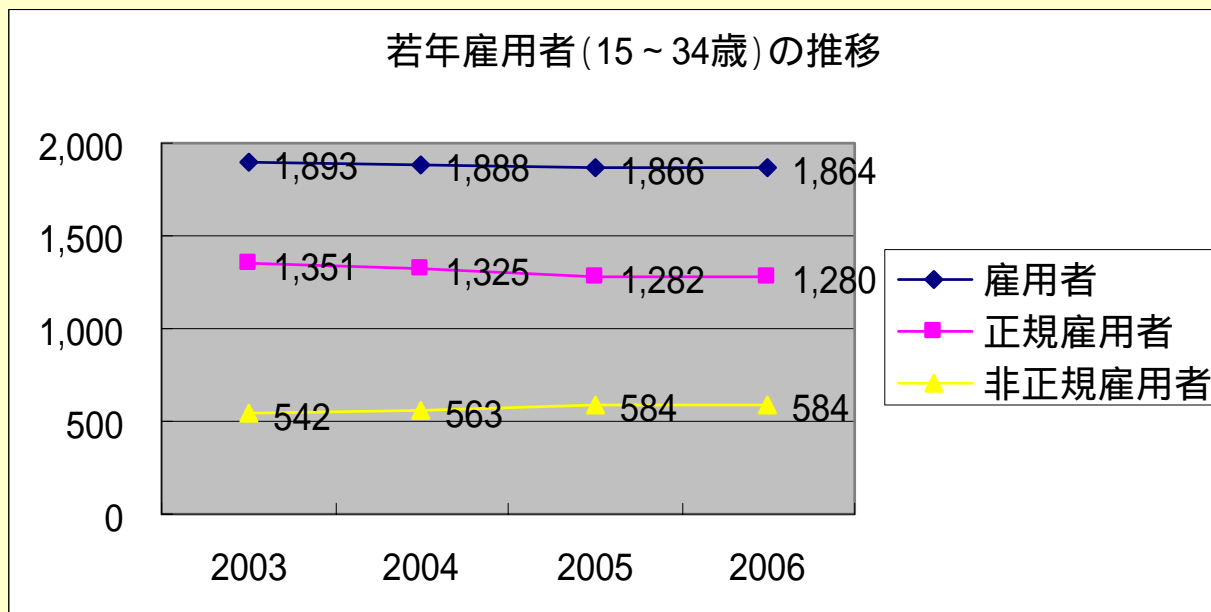
労働政策研究・研修機構

稲川 文夫

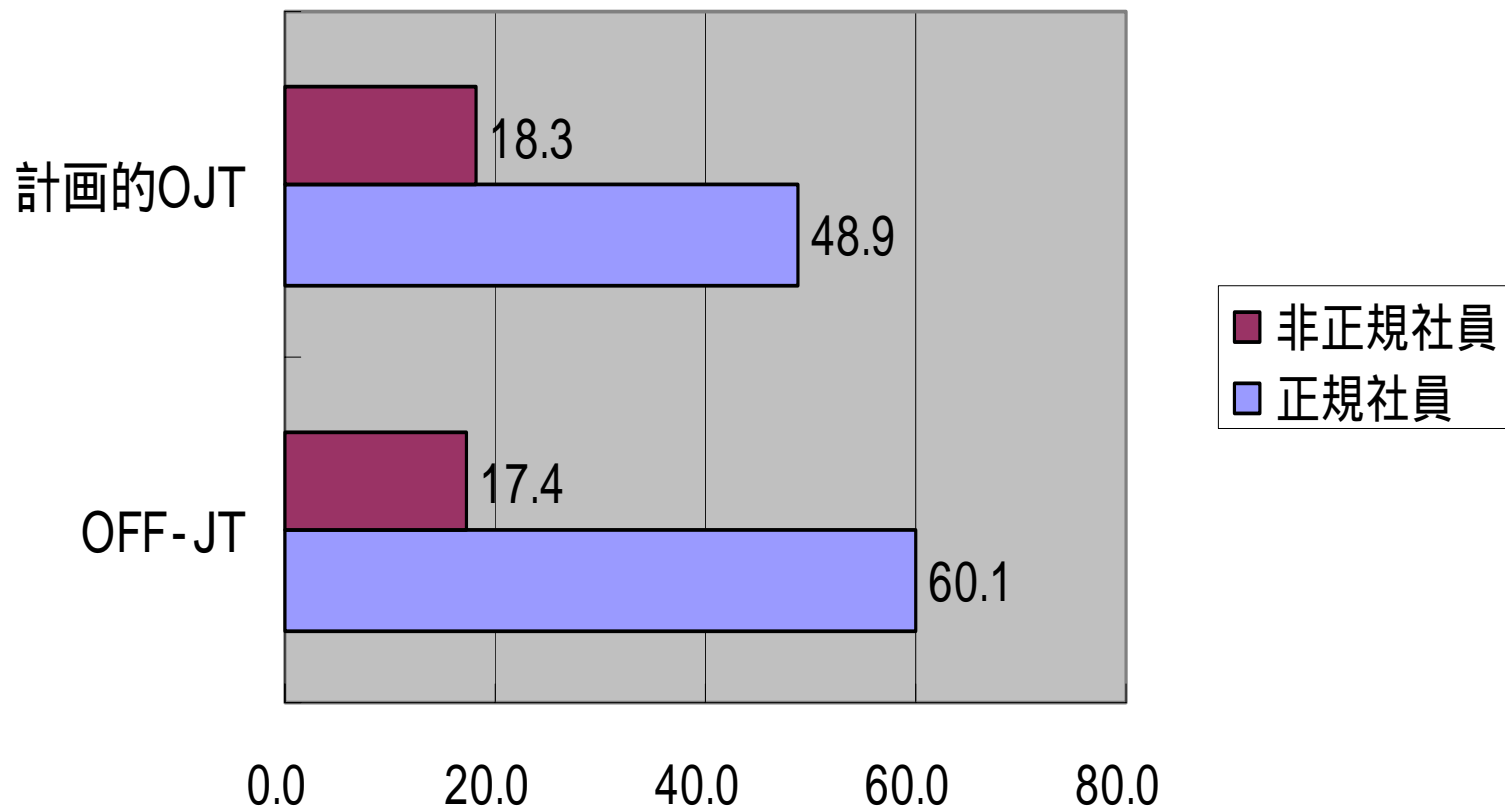


図表1 正規雇用者と非正規雇用者の動向 (単位:万人)

	年	2003	2004	2005	2006
	雇用形態				
全体	雇用者	4,948	4,975	5,007	5,088
	正規雇用者	3,444	3,410	3,374	3,411
	非正規雇用者	1,504	1,564	1,633	1,677
15～34歳	雇用者	1,893	1,888	1,866	1,864
	正規雇用者	1,351	1,325	1,282	1,280
	非正規雇用者	542	563	584	584



図表2 従業員の教育訓練を実施している企業の割合



図表3 過去1年間における「研修や自己啓発」の実施状況(非正規社員) N=885

(単位:%)

	実施した	実施しなかった
全体	25.4(47.7)	72.0(50.9)
20歳代	28.5(47.9)	69.6
30歳代	23.7(46.4)	75.9
40歳代	27.3(48.4)	69.9
50歳代	23.2(48.5)	72.0

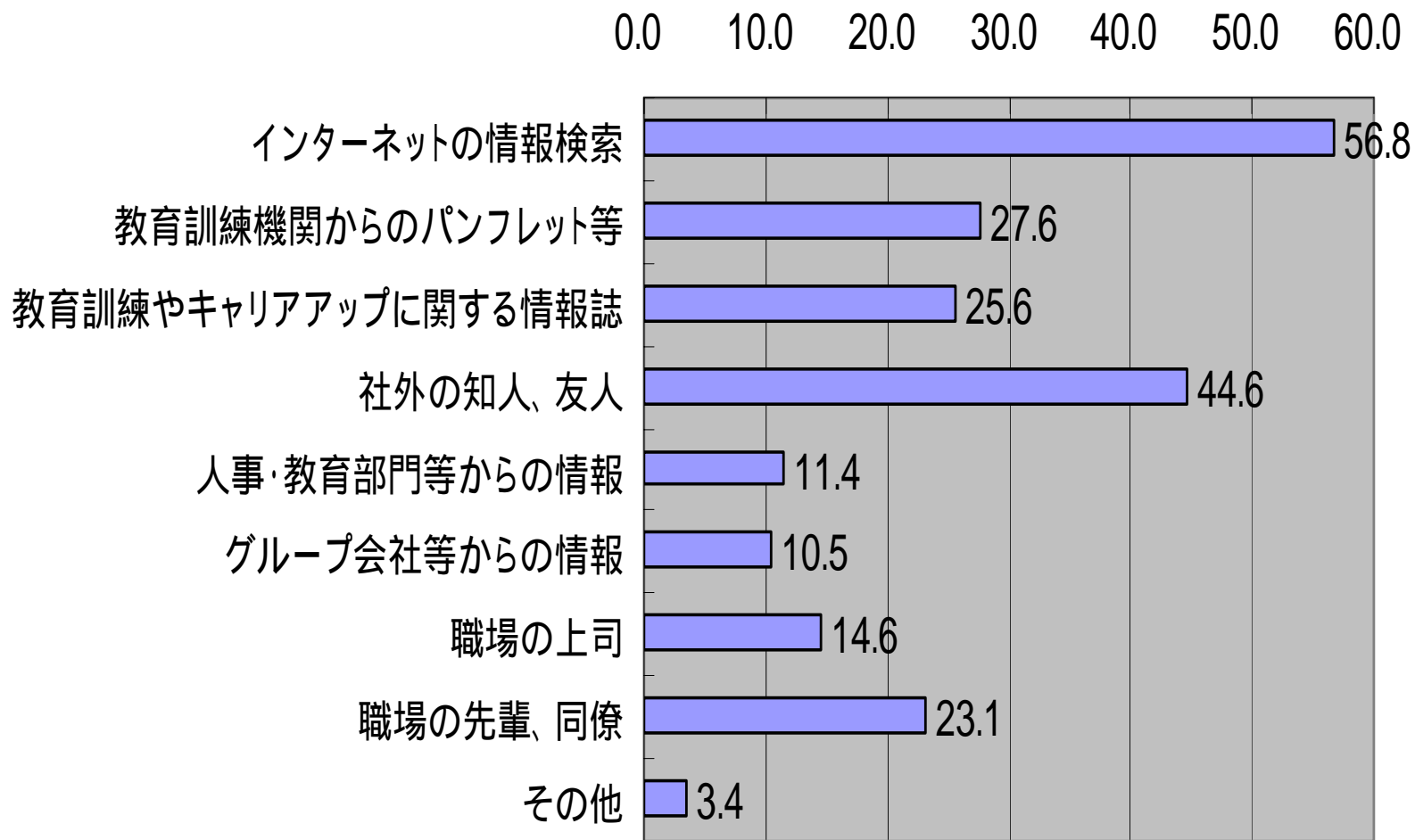
注)()内の数値は正社員を示す。

図表4 自己啓発に投資できる資源と活用状況(非正規社員) N=746

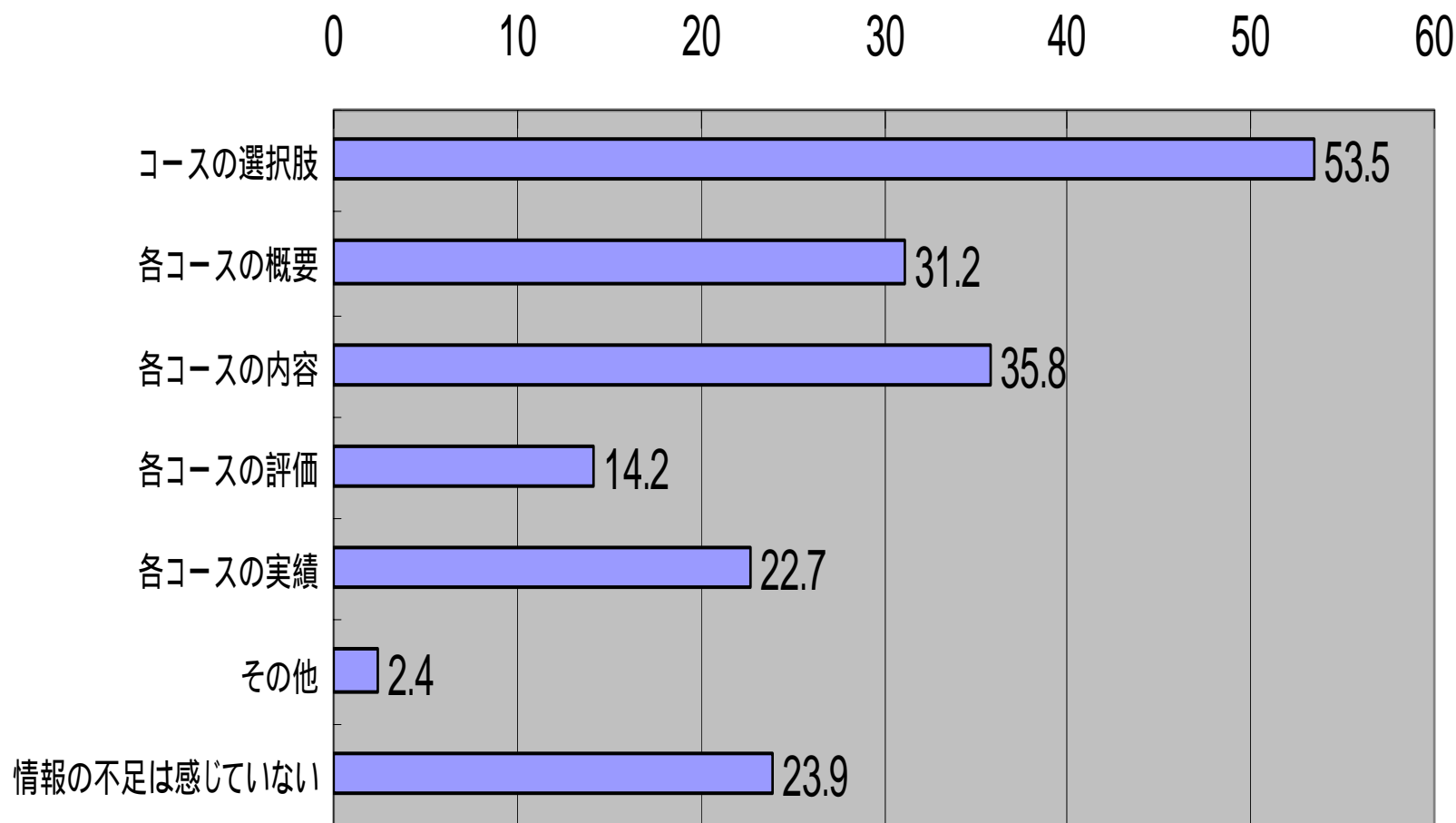
	自己啓発への投資資源					
	お金			時間		
	自己啓発 予算額(千 円)	実施額 (千円)	投資率 (%)	自己啓発 可能時間 (時間)	実施時間 (時間)	投資率 (%)
全体	70.0	13.6	19.5	102.8	21.8	21.2
20歳代	95.2	25.9	27.2	133.6	40.4	30.3
30歳代	60.7	8.3	13.6	102.3	13.0	12.7
40歳代	53.8	10.8	20.0	91.6	22.0	24.0
50歳代	80.4	14.2	17.6	95.0	18.4	19.4

注) 実施額: 過去1年間における「研修や自己啓発」のために使った金額

図表5 能力開発に関する情報の入手方法



図表6 自己啓発に関して不足している情報(N=440)



図表7 自己啓発にあたっての問題点(N=440)

